

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【経済産業省】

施策番号	27131	施策名		エネルギーITS推進事業			
新規/継続	継続	領域	グリーン・イノベーション	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	
競争的資金		e-Rad		社会還元	ITS		
施策の目的及び概要	<p>渋滞解消、車両走行制御等によって省エネルギー・温暖化対策を効果的に図ることができるITSの実用化及び普及を促進し、運輸部門のエネルギー・環境対策を進めるため、以下の事業を行う。</p> <p>(1)自動運転・隊列走行の研究開発 高速道路を走行する複数の車両(トラック)の車間距離を接近させ、後続車両の空気抵抗を減らすことにより、燃料消費及びそれに伴うCO2排出量の削減を目指す隊列走行技術を開発する。</p> <p>(2)国際的に信頼されるCO2削減効果評価方法の確立 ITSの導入によるCO2削減の効果を正確に評価することができる手法・技術を開発するとともに、欧米諸国と調整を図り、国際的に共通した効果評価方法を策定する。</p>						
達成目標及び達成期限	<p>平成24年度までに、以下を実現することを目標とする。</p> <p>①自動運転・隊列走行の研究開発 要素技術の開発完了及び各要素技術の機能・信頼性の検証完了、並びに、自動運転・隊列走行の実証実験完了</p> <p>②国際的に信頼されるCO2削減効果評価方法の確立 効果評価方法を確立し技術報告書として取りまとめるとともに、国際シンポジウムを開催し、当該評価方法を国内外に発信</p>						
研究開発目標及び達成期限	<p>自動運転・隊列走行技術の開発により、高速道路を走行する貨物車両(トラック)の燃費・CO2排出量を単車比で15%以上(15~18%)削減する(2020年)</p>						
23年度の研究開発目標	<p>本施策により、平成23年度中に以下を実現する。</p> <p>①自動運転・隊列走行の研究開発 要素技術の統合、信頼性の向上、及び、各種要素技術に関する走行実験の実施</p> <p>②国際的に信頼されるCO2削減効果評価方法の確立 シミュレーション関連ソフトの作成、及び、22年度までに開発した各種モデルの検証、改良等</p>						
施策の重要性	<p>CO2排出量全体の約20%を占める運輸部門にあって、自動車分野はそのうちの約9割を占めている。さらに、自動車分野の中で、自動車単体対策、燃料対策とともに約3分の1のCO2排出量を占める交通流対策として、渋滞解消、車両走行制御等を実現する高度道路交通システム(ITS)の実用化及び普及を促進し、運輸部門の温暖化対策を進めることが必要であり、自動運転・隊列走行の研究開発、CO2削減効果評価方法の確立を推進する本事業は重要である。</p>						
実施体制	<p>NEDOにより研究開発管理の下、民間企業・団体、大学から成るコンソーシアムにて、研究開発、走行実験等を実施するとともに、社会還元加速プロジェクトのタスクフォース会合において、本事業の実施状況等を紹介しつつ関係省庁等と意見調整を実施するなど、産官学連携で実施。</p>						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
904				950			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)				NEDO			
<p>研究開発費:887 自動運転・隊列走行:781 装置等関係費:359 人件費:173</p>							

H23概算要求額の内訳	その他の経費:147 一般管理費:102 CO2削減効果評価方法:106 人件費:49 その他の経費:43 一般管理費:14 消費税:44 研究開発管理費:19 —		
期間	H20～H24	資金投入規模(億円)	47
これまでの成果(継続のみ)	①自動運転・隊列走行の研究開発 ・走行制御技術、走行環境認識技術、位置認識技術、車車間通信技術の各要素技術について予定通り設計・開発を実施。 ・走行実験用車両を製作し、時速80km、車間距離20mで、大型トラック2台での隊列走行実験を実施し、目標の急制動制御精度を達成。 ②国際的に信頼されるCO2削減効果評価方法の確立 ・交通流からのCO2排出量推定シミュレーション、データベースのプロトタイプ開発を完了。 ・米欧の研究者と国際共同研究体を構築し、国際ワークショップにて研究の促進を図った。		
社会情勢・技術の変化(継続のみ)	運輸部門のエネルギー・環境対策は自動車単体に依存しており、京都議定書目標達成計画ではITSを活用した交通流体策の貢献度は低い。 新・国家エネルギー戦略における2030年までに運輸部門の石油依存度を80%程度、エネルギー効率を30%向上の目標達成のため、「次世代自動車・燃料イニシアティブ」とりまとめ(平成19年5月)における方策の一つとして「世界一やさしいクルマ社会構想」を打ち出し、ITSをキーとした低炭素社会の実現を提唱。		
昨年度優先度判定(継続のみ)	優先	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	—
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	現在NEDOにおいて検討中		